

## 【テーマ1】 国立大学法人信州大学

## クラウド活用による校務処理の学びを通じて「校務のDXに対する見方・考え方」を働かせる教員養成カリキュラムの開発

## 調査の概要

## ◆課題認識

学校教員の長時間労働を適正化し、その働き方を改革することが課題となっている。

## ◆調査研究の目的

本調査研究では、教員養成学部生が校務のDXに対する見方・考え方を働かせて、校務のDXに資する資質・能力を身につけるための教員養成カリキュラムの開発を目的とする。

## ◆調査研究の方法

実践的なICT活用指導力を育成するための教員養成カリキュラムに加えて、「校務処理に関わるICT活用の基礎の習得」「校務処理に関わる教育臨床の観察」（必履修科目）の新規2領域を開発し、校務のDXを踏まえて既存カリキュラムの拡充を図る。

## ◆調査研究校

国立大学法人信州大学教育学部2・3年生

## ◆現状

本学部は、令和3年度の本事業を受けて、教育臨床活動を主軸とした実践的なICT活用指導力を育成するための教員養成カリキュラムを開発した。校務に関する講義を担う学部科目と教育臨床活動及びICT活用指導力を育成するための科目が連携していなかったこと、教育臨床活動のなかで学生が目にする校務が多岐に渡っており、学部卒業までに身につけるべき校務スキルが不明確であったことに起因する。そして、煩雑な学校内の業務フローが、教育臨床活動を通じて得るべき校務に対する意識づけを阻害し、本学部においてGIGAスクール構想下で新たに求められる校務の情報化スキルを育成するに至らない要因となっている。

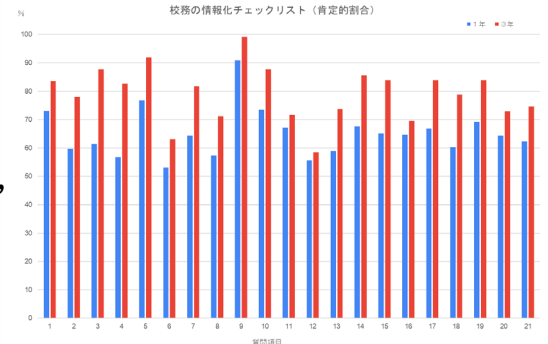
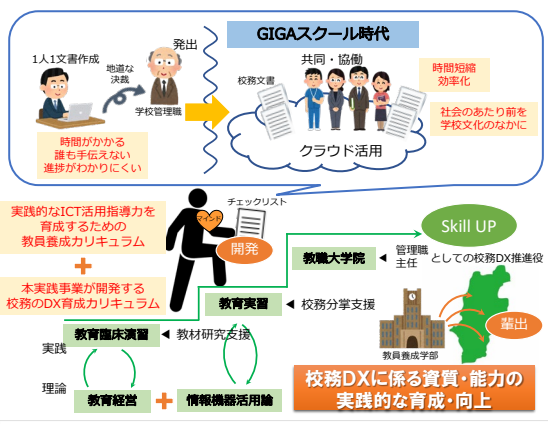
## 取組のポイント・成果

## ◆取組のポイント

- 校務処理に関わるICT活用の基礎の習得
- および校務処理に関わる教育臨床の観察・参画
- ・教育臨床演習（2年次）
- ・教育経営（2年次）
- ・教育実習（3年次）
- ・情報機器活用論（3年次）

## ◆成果

教育臨床活動を軸にした実践的なICT活用指導力育成の既存カリキュラムに加えて、校務のDXを目的とした科目の追加と内容拡充を行い、校務のDXに対する見方・考え方を身につける発展的な教員養成カリキュラムを開発した。学部生たちに対するアンケート調査の結果をみると、クラウド活用による業務改善を図ることで、校務のDXを通じた働き方改革を意識し、将来的に業務フローの改善や校務のDX推進に向けてリーダーシップを発揮できる人材を育成することにつながった。



## 今後の課題

## ◆「各授業カリキュラムに対する校務DX」の具体的支援と効果測定

- ・どのような要素が調査項目のどの部分に関連しているのかを明確化すること
- ・各授業のシラバスやカリキュラムの内容を精査してカリキュラムのなかに具体化すること